

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

|         |                  |            |  |
|---------|------------------|------------|--|
| 事業所番号   | 3690200013       |            |  |
| 法人名     | 株式会社 そよかぜ        |            |  |
| 事業所名    | グループホームそよかぜ      |            |  |
| 所在地     | 鳴門市瀬戸町明神字上本城77-2 |            |  |
| 自己評価作成日 | 平成29年9月30日       | 評価結果市町村受理日 |  |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a> |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                               |  |  |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会             |  |  |
| 所在地   | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階 |  |  |
| 訪問調査日 | 平成29年12月7日                    |  |  |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みんな仲良くいきいき生活をモットーに職員と入居者といった関係ではなく、第二の我が家、家族といったアットホームな雰囲気を大切にしながら、日常生活においては個々の生活ペースを尊重している。ご家族様には要望等が気軽に言ってもらえるように面会時には状況等を詳細に報告しながら信頼関係が構築できるように努めている。  
居室もリフォームし明るく快適な空間が提供できており、共有スペースである居間では団らんでできるスペースも確保し入居者様同士で談笑されている姿も日々見受けている。  
要介護度が高い方が多く可能な限りは当施設で過ごしてほしいと家族様からの要望も受けターミナルケアも視野に入れ介護職員の資質向上の為に研修にも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、海に面した建物の2階にある。建物は、リフォームし、リビングの大きな二面の窓からは明るい陽が差し込んでいる。事業所では、“みんな仲良くいきいき生活”を理念とし、できる人ができることをし、利用者職員がともに時間を過ごし楽しく暮らすことができるよう支援している。職員は、試行錯誤し利用者の自由な暮らしを支援している。管理者は、利用者の家族をはじめ職員とのコミュニケーションを大切に捉えている。協力医療機関と24時間の連携体制をとり、今後増加が予想される看取りへの対応に向けて、職員の介護力向上を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印  | 項目   | 取り組みの成果<br>↓該当する項目に○印  |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | ○<br>1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○<br>1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | ○<br>1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○<br>1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○<br>1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)     | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 66 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○<br>1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○<br>1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  |  |  |

## 自己評価および外部評価結果

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |  |
|--------------------|-----|---|--|--|--|
|                    |     |   | そよかぜ<br>実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |  |  |  |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                                | 職員一人一人に事業所の理念の紙を掲げており毎回勤務する際に志を確認する。申し送り時にもその旨を報告・連絡・相談において共有し合う事で実践に繋げている。            | 事業所は、“利用者が地域の中でいきいきと仲良く暮らし続けていくための支援”を理念としている。全職員は、理念を支援の基本と捉え、日々の業務のなかで確認し合いながら実践している。  |  |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している                                | きれいな会や地域の清掃活動に参加し地域の人々と交流することに努めている。   | 事業所では、地域の保育所や幼稚園の子どもたちを招待したり、中学生の職場体験での来訪を受け入れたりして交流を図っている。近隣住民からおすそ分けをもらうこともある。毎月、地域のボランティアの来訪があり、共に作業を楽しむなど、地域の人々と交流を行っている。      |  |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                              | 運営推進会議などにおいて地域の人々に認知症の方の特質、あり方支援方法を説明のうえ伝達している。  |  |  |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている           | 運営推進会議に取り上げた内容について色々な意見を出していただき職員に報告し実践するようにしている。                                      | 2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、行事や利用者の支援状況について双方向的に意見交換を行っている。出された意見や提案を職員間で話し合っ運営面に反映し、次回の会議の際に報告している。しかし、事業所の改善課題や評価項目等の協議までには至っていない。 | 運営推進会議は地域の理解と支援を得るための大切な機会であるため、事業所の取り組みや改善課題、評価項目、目標達成計画への意見をj得て、サービス向上に活かされたい。 |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                      | 報告書等の提出時や運営推進会議等で報告、相談する事で意見や指示等をいただけている。  | 管理者は毎月、市の担当窓口を訪問し、事業所の取り組みや活動内容について話し合うなどしている。また、月2回、市の介護相談員を受け入れるなどして、協力関係を構築している。  |  |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 施設が2階に位置しており出るとすぐ急な階段の為転落等の危険を伴うが日中は施錠しておらず毎回出入り口付近や入居者の方の行動に注視し業務に努めている。              | 事業所では、職員間で、話し合う機会を設けるなどして、身体拘束の弊害を正しく理解し、利用者一人ひとりの自由な暮らしの支援に取り組んでいる。職員は、利用者の心身の動きに寄り添う支援に努めている。                                    |  |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている           | 虐待の定義を知る事で防止につながると考えている為勉強会を実施している。困難事例の場合は職員全員で考え対応している。人間関係が良好になることで虐待に至らないよう配慮している。 |  |  |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
|    |     |  | そよかぜ<br>実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 不明なことは積極的に調べ職員間で情報の共有を図り理解した上で活用できるように努めている。   |  |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                        | 契約を結ぶ際は不安や疑問を聞き取り十二分に説明し理解や了承を得たうえで契約をしていただいている。   |  |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | ご家族様とは積極的に交流を図ることで意見や要望を聞き出せる機会をつくっている。また信頼関係を構築する事で様々な考えや意見を聞き取る事ができるので利用者の支援や業務運営に反映する事ができている。 | 職員は、日頃の利用者との関わりの中で、意見や希望の把握に努めている。事業所は、家族の来訪の機会も多く、利用者の状況を伝え、話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、メールやラインを介して意見を伝えてくれることもある。出された意見は、全職員で検討し、運営に活かしている。 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 日常の業務の中や休憩時間においても意見を発する事がしやすい環境であり、月1回のカンファレンス後においても聞き取りできている。                                   | 代表者と管理者は、職員の意見や提案を大切にしている。日常の業務の中や職員会議等で出された提案を、速やかに検討し運営や環境改善に反映させる仕組みを築くことで職員の働く意欲向上にもつながっている。                                       |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 就業規則を抜本的に見直しを行うと共に人事考課規定を取り入れ職員の資質向上及び働きやすい環境づくりに努めている。  |  |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 交代で研修を受ける機会を設けているが勤務体制等で参加できないことがある。事業所内で数か月1度の研修も設けている。また個別に実践を織り込み技術や知識を身につけていってもらうように支援している。  |  |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 相互評価や運営推進会議で交流する機会が少ないが少しずつ同業者と交流が図れる機会をつくりたいと思っている。   |  |                   |

| 自己                           | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
|                              |     |  | そよかぜ<br>実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |   |   |                   |
| 15                           |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 馴染みのない環境において孤独感からの不安に至らないよう初回アプローチを重要とし安心していただき信頼関係の構築に努め要望等を自発的に発する事ができる事で安心を確保できるよう努めている。 |   |                   |
| 16                           |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 入所申込み時や決定時に家族様と密に連携を図り気軽に相談や要望等が言えるような雰囲気づくりの関係作りに努めている。                                    |   |                   |
| 17                           |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 要望されていることに対し必要なサービスを提案し1階のデイサービスとの交流や外部交流等も含めた支援の対応に努めている。                                  |   |                   |
| 18                           |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 家族のような関係を築きお互いが支え合いながら孤独を感じる事なく安心して穏やかな生活が送れるように努めている。                                      |   |                   |
| 19                           |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 家族が面会に来た際に本人との関係を伺いつつ家族の意見や思いも傾聴し些細なことも報告や相談しながら職員と家族で共に本人を支えているといった意識ができています。              |   |                   |
| 20                           | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 馴染みの方が面会に来られた際にはゆっくりと対話ができるような雰囲気づくり等に配慮している。また以前に通っていた教会などにも月1回程度であるが参加したりできるよう支援している。     | 職員は、利用者の馴染みの店への買い物や近隣の札所へのお参りを支援している。また遠方の家族との連絡を取るために支援を行うなどして、関係継続に努めている。 |                   |
| 21                           |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 職員は日常生活において利用者同士の関係を把握しており、共同作業やレクの際は職員も共に行い共に支え合う事で孤独や不安を感じる事が無いように努めている。                  |   |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
|                                    |      |  | そよかぜ<br>実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 退居された方のご家族の様にも催し物等の際は声かえを行っている。また相談等があった場合は真摯に対応させていただいている。                                     |   |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |   |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 日々の関わりの中で本人の何気ない言葉や態度等を貴重な情報ととらえ可能な限り実現できるように支援している。また意志表示が困難な方も家族からの情報や意向も踏まえできる限り本人本位に留意している。 | 職員は、日頃の利用者一人ひとりの些細な行動やつぶやきなども大切にしている。意思の表出が困難な方には、家族や関係者から情報を得て、本人本位に検討している。                              |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 入所時の密な聞き取りなどの基本情報を元に回想法で得た情報等や家族との話からその方を知る参考にし自分らしく暮らしていけるよう努めている。                             |   |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 申し送りや介護記録、日々の日常生活の言動行動の異変時の早期発見早期対応に努めている。またできない事よりも出来る事に重きを置いている。                              |   |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 定期的カンファレンスや日々の申し送り等で得た情報を元に本人、家族の意向、職員間でのケア方針等を元に担当者会議以外でも家族と密に連絡を取り、情報の共有を図り介護計画を作成している。       | 事業所では、本人や家族の意見や希望を聞き、職員や関係者で話し合い、利用者の意向に応じた介護計画を作成している。家族や関係者間でモニタリングを繰り返し行い、本人の心身状況の変化に対応できる体制の構築に努めている。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 個人ファイルを用意し食事水分摂取量、排泄状態、心身状態、日常生活状況などを記録している。業務日報等で情報を共有。見直し支援に繋げている。                            |   |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 本人の心身状態により通院、買い物、近隣の散歩、ドライブ等マニュアル化することなく柔軟に対応できるよう努めている。  |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|---|--|--|-------------------|
|    |      |   | そよかぜ<br>実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 希望により訪問美容師のサービス利用をしている。  |  |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 本人や家族の希望に応じ往診以外も通院が必要な場合は適切に医療を受けられるよう支援している。家族の付き添いが困難な場合は職員が付き添い医療を受ける事ができるよう支援している。           | 事業所では、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族や医療機関と情報を共有しつつ、適切な医療の受診を支援している。   |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 毎日看護師には心身状態を報告している。検査結果や受診結果、薬の変更等も詳細に伝達しており連携が取れている。体調不良の際は対応等指示を受けたりしつつ適切な支援ができています。           |  |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院によるダメージを予防する為に家族や医師と相談し施設内での対応可能な段階で退院している。入院中は可能な限り見舞いに行き医師、看護師等からも身体状態の情報を得るようにしている。         |  |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 本人の状態を家族に説明し主治医と家族の話し合いの場を設けている。場合により家族の意向を伝達もしている。両者に対し施設内での可能不可能を詳細に説明し理解していただき連携が図れるよう支援している。 | 事業所では、入居時の段階で、重度化した場合や終末期に、事業所のできる対応方針などを説明し、本人や家族の意向を確認している。協力医療機関とは、本人や家族の意向を最優先とし、関係者とともにチームで支援する体制を整備している。 |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 通常の身体状態の把握から始まり病識の知識を得ての状態観察力の向上、異変時の早期発見早期対応、急変時の初期対応が行えるよう外部研修の救急救命の講習に参加し実践力を付けている。           |  |                   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 今までは消防署の協力の元利用者と一緒に火災発生時の初期消火訓練、避難訓練をおこなっているが今年度は夜間時の地震発生などにたいする避難訓練を行った。                        | 年2回、消防署や地域住民の協力を得て消火避難訓練と夜間想定津波避難訓練を実施している。また、災害時に備え、備蓄を準備している。  |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
|                                  |      |   | そよかぜ<br>実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |  |  |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                    | 会話しやすいように地元の言葉で話しかけたり自身の意思で決定しやすいような言葉掛けに留意している。   | 職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援を心がけている。特に、入浴や排泄時には自己決定しやすい言葉かけやさりげない見守りを行うなど、プライバシーに配慮した対応に努めている。 |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                      | 希望を聴取したり思いが伝えにくい方に対しては複数の案をだして選んでいただけるように努めている。  |  |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事時間、入浴日等はある程度は決めているが基本は本人の意思を尊重しているの<br>で皆さんマイペースに過ごせるように支援している為穏やかな日常が過ごせるよう支援している。          |  |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                   | 衣類の選別も職員と共に選んだり、髪型もパレット等でセットし起床時はみなさん洗顔後に化粧水を塗布、入浴後は毎回保湿剤(オリーブオイル)を塗布し身体から美容に心掛けている。           |  |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている      | 個々に応じて食事の準備から後片付け等行って頂いている。食事意欲がわくように形態、栄養バランスにも留意している。また、利用者の方に何が食べたいか聞きメニューに取り入れており喜ばれている。   | 事業所では、利用者と職員で食卓を囲み、家庭的な雰囲気の中楽しく食事をとっている。利用者の好みにも配慮した献立となっており、利用者と職員で食事の準備や調理を行っている。      |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている           | 食事、水分摂取量を記録し1日に必要な摂取量が把握できるようにしている。本人の嗜好に合わせた物を提供するようにしている。<br>個人の身体状態に応じた食事形態も対応している。         |  |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                    | 起床、毎食後は必ず口腔ケアを実施しており個々に応じた介助等の支援を行っている。月に3回歯科衛生士によるブラッシングを実施と共に口腔内の状態報告等により異変時の早期対応早期発見が図れている。 |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|--|--|---|-------------------|
|    |      |  | そよかぜ<br>実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                             | 介助を必要とされている方に対しては個々の排泄記録により排泄パターンを読み取りトイレ誘導し失禁に至らないように常時心掛けている。                                | 事業所では、歩行可能な利用者は全員トイレへの誘導を行ったり、トイレへの誘導が困難な利用者もポータブルトイレの利用を促したり、トイレでの排泄の自立に向けた支援に努めている。職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、負担なく排泄できるよう支援している。 |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる   | 便秘予防の対策として運動、食事、水分に留意している。またそれでも排泄が無い場合は看護師や医師に相談の上薬剤療法に繋げている。                                 |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている                            | 週3回午前中の中の入浴とおおまかに決めているが、あくまで入所者の心身状態に応じた柔軟な対応を基本としている。入浴の際には入浴剤を使用したり楽しい入浴になるよう努めている。          | 事業所では、利用者一人ひとりの希望に沿った入浴を支援している。入浴剤を使うなど、楽しく入浴できるように努めている。入浴を拒む利用者には、声かけやタイミングを工夫したり、清拭したりしている。                                    |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している  | その他方の生活ペースで自室で休息して頂いたりホールで居眠りなど個々に応じた対応で過ごさせていただいている。  |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている   | 受診記録、薬剤情報をもとに心身状況や副作用を理解し状態の変化に十分注意し職員間で把握できるように努めている。薬局より薬の説明等も毎回受けており服薬状態に応じ錠剤、粉末等に対応している。   |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                            | 意見や希望を聴取しここにに応じた役割や趣味、趣味、嗜好品等で楽しく生活が送れるように支援している。  |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 頻繁な外出は困難であるが近隣の散歩や買い物は個々の身体状態に応じた支援を行っている。外出が困難な方については施設内で過ごしながらも全員参加の花火鑑賞ができるように支援させていただいている。 | 事業所では、天気の良い日は、ベランダでの日光浴や散歩、菜園の手入れなどを楽しんでもらっている。また、職員が出かける際に、利用者が同行するなど自由な外出を支援している。外出が困難な利用者には、居室から出て、行事参加や利用者間でのふれあいなどの支援に努めている。 |                   |



| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | そよかぜ<br>実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 現在は金銭管理が自身で行える方がいないが買い物等の際は事務所管理のお小遣いから少し出し職員見守りや一部介助のレジでの支払いを行っていただく等の支援をしている。 |   |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 手紙を書くといった事を勧めても拒否されるが、電話は掛けたり掛かってきたりしておりその都度取次等の支援を行っている。                       |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有スペースは動線上に障害物が無いように物品の整理整頓している。ホールは家庭的な雰囲気に配慮し入居者の方も落ち着いて日々過ごされている。            | 事業者内は整理整頓され、共有空間は、明るく、清潔な環境となっている。利用者が過ごしやすいようにソファなどの配置を工夫している。壁面には、季節感に配慮した作品を飾りつけている。食事の準備をする音や匂いが漂う家庭的な空間となっている。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 共有スペースでは温かい雰囲気が出るように作品等の展示や談話できるスペースの確保や個別にくつろげるスペースを確保している。                    |   |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている   | 入所時は本人が愛用している物を持参していただくようお願いしている。個室である為整理整頓を心掛け動線上に障害物が無いように配慮し転倒事故等の予防に努めている。  | 事業所では、利用者一人ひとりの使い慣れた物品を持ち込んでもらっている。居室は、シンプルにまとまっており、利用者にとって居心地よく過ごすことができるよう配慮している。職員は、居室を清潔に保つよう気を配るなど環境づくりを支援している。 |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 個々に応じた出来る事、解ることを把握して少しでも自立した生活ができるように工夫し事故に至らないように配慮している。                       |   |                   |